



サンゴ礁パネルシアター（印刷用）

■ 概要

サンゴやサンゴ礁生態系の基本的な知識を、パネルシアターの手法を使って参加者に楽しく伝えます。パネルシアターは、おもに幼児教育の現場で使用されているプレゼンテーションの手法です。自由に話を組み立てることができ、また場の雰囲気がやわらかくなるので、難しい内容の話をするときに適しています。サンゴ学習の導入やまとめとして取り入れると効果的です。

■ 学べる事

- サンゴがどのような生きものであるのかを学ぶことができます。
- サンゴ礁生態系について学ぶことができます。
- サンゴ礁をとりまく環境問題について学ぶことができます。

■ 準備するもの

- ◆パネルとなる布…フェルトかネル布 60 cm×70 cm以上
- ◆板…プラスチックダンボールかスチロールボードが安価でお勧めです。布を貼り付けて、パネルシアターのパネルを作ります。
- ◆イラスト…「使用する教材」からダウンロード
- ◆Pペーパー（A4サイズ）…イラストを印刷し、ハサミで切り抜きます。

＊「Pペーパー」はパネルシアター専用紙です。

- ◆パネルを置く台…イーゼルがあると便利です。
- ◆台本…「実施の仕方」の例を参考に作成してください。

■ 実施の仕方

1. 準備をします。

パネルを参加者が見やすい高さに設置します。

2. さあ、はじめましょう！

参加者をパネルの前に集めて見やすい場所に座ってもらいます。

3. はじまり、はじまり

話し手はパネルの横に立ち、絵を貼ったりはがしたりしながら話をすすめます。



◎実施場所：室内
◎所要時間：10分～20分

＊注！
パネルが垂直だと絵が落ちやすいので、三脚などを利用し、少し斜めになるように工夫します。

＊注！
話し手はパネルの前に出て話をすることもあるので、参加者が近づき過ぎないようにしましょう。

＊注！
絵は取りやすいように、台の上などに順番に並べておきましょう。





＜台本例＞

「サンゴが大好きなのは、太陽の光が届くきれいで温かい海です。サンゴは動物ですが、体のなかには褐虫藻という植物プランクトンがすんでいて、光合成をしています。その栄養をもらってサンゴは大きく成長できるのです」

「春の大潮の夜、海のなかでは年に一度の大イベントが始まります。そう、サンゴの産卵です。桃色の小さな粒は水面まで浮かんでいくと割れて、受精します」

「受精して生まれたサンゴの赤ちゃんは、『プラヌラ』というプランクトンになって海のなかを漂います。体の大きさは1～2ミリ。表面にある細かい毛を動かして泳ぐことができます」

「すみやすそうな場所が見つかりました。岩にくっつくプラヌラは骨をつくり、『ポリプ』というイソギンチャクのような姿に変わります。ポリプは分裂を繰り返しながら、大きなサンゴへと成長していくのです」

「大きく育ったサンゴたち。でも最近、近くの島にはたくさんの方が暮らし始め、海のなかの様子も変わってきました。生活排水が流れ込んできました。海が汚れるとオニヒトデが大発生して、サンゴを食い荒らします。陸の住宅建設などの開発によって、大雨のときには土砂が大量に流れ込み、海が濁ります。観光客がサンゴを踏み荒らしています。サンゴたちが悲鳴をあげていますよ」

「海が汚れて太陽の光が届かなくなると、サンゴの体のなかにいる褐虫藻は光合成ができなくなってしまう。すると、サンゴは栄養をもらえないため、お腹がすいて弱ってきます」

「最近では、地球温暖化の影響で海水温が高くなってきています。この状態が長く続くと、サンゴは強いストレスを感じて、ついには大切な褐虫藻を自分で消化してしまいます。褐虫藻のなくなったサンゴは白くなります。これがサンゴの白化現象です。この状態がひと月以上続くと、多くのサンゴは死んでしまいます」

「だけど、サンゴはとても生命力（生きていこうとする力）の強い生きものです。私たち一人一人が海のなかのサンゴのことを気にするようになって、環境がよくなっていくと、サンゴたちはまた元気





を取り戻してきます」

「こうしてサンゴが元気になると、周りにいろいろな生きものたちがまた集まってきました」

「みなさんはどんな海が好きですか？」

4. まとめをしましょう。

参加者に気づいたことを聞いてみましょう。「どのような海だったらサンゴが喜ぶのかな？」と問いかけてもよいでしょう。

◆ポイント！

一方的に話すのではなく途中で参加者に問いかけたり、絵を貼るのを手伝ってもらったりするとよいでしょう。

◆ポイント！

話の流れにしたがって必要がなくなった絵は順次はがし、場面を変化させていくと、解説が分かりやすくなります。

